

平成 25 年度研究成果情報

課題名：ノリの色落ち原因珪藻アステリオネラの塩田川河口域における分布調査

[背景・ねらい]

珪藻類アステリオネラは有明海佐賀県海域において冬季に赤潮を形成し、ノリの色落ちを引き起こすため、その赤潮発生機構の解明が求められている。これまでの調査により、アステリオネラ赤潮は塩田川河口域を中心に発生し、河川側ほど高密度となることが確認されている。このことから、アステリオネラの赤潮発生機構の解明には、塩田川河口域の上流部の調査が重要であると考えられた。そこで今回、既存の2定点(図1、St.GおよびH)に加え、上流部に新たに6定点(図1、St.A～F)を設定し、アステリオネラ赤潮発生時および衰退後におけるアステリオネラの分布調査を実施した。

[成果]

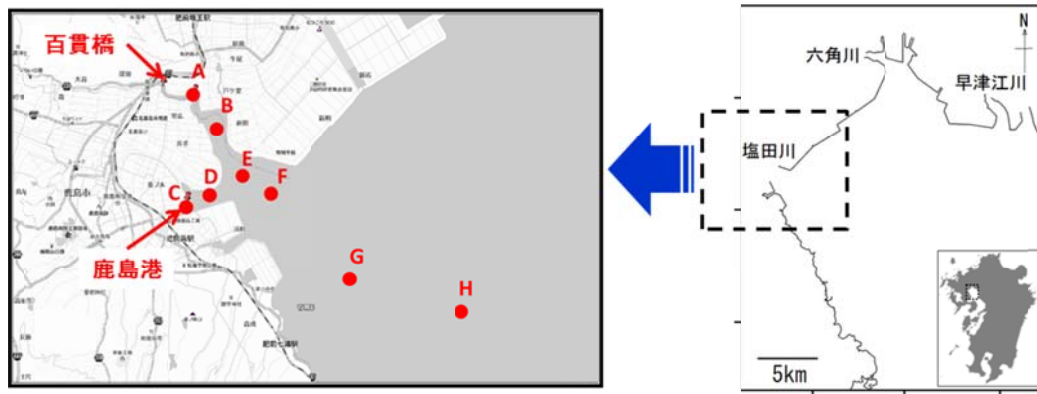


図1 調査定点図

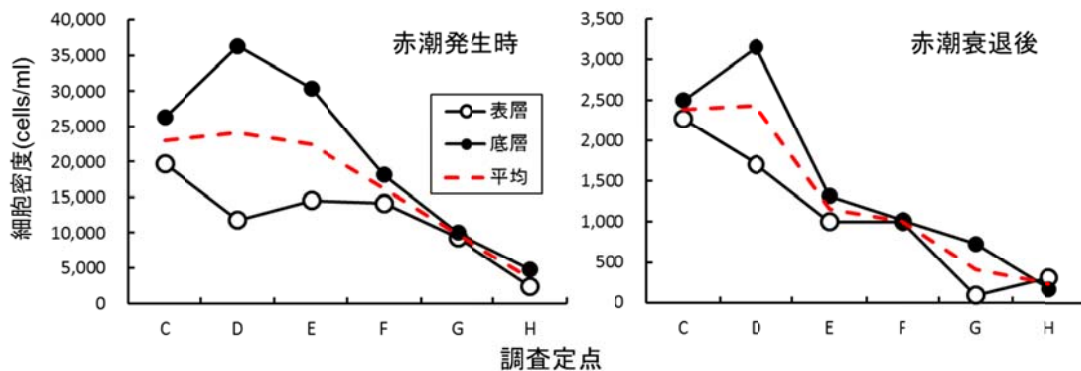


図2 赤潮発生時(左)および衰退後(右)の塩田川河口域におけるアステリオネラの分布状況

- ・ 本調査により、アステリオネラの細胞密度は塩田川河口域の上流部ほど、また底層ほど高い傾向であることが確認され(図2)、アステリオネラは塩田川河口域の上流部で増殖していることが示唆された。
- ・ 塩田川河口域の上流部におけるアステリオネラの動態を定期的に把握することで、アステリオネラ赤潮の発生予察の早期化、さらに赤潮衰退時期の予察法の確立が可能になると考えられた。

[課題・問題点]

- ・ 平成 25 年度は赤潮発生時および衰退後の 2 回のみ調査であり、赤潮発生前の調査ができていない。

[今後の対応]

- ・ 今回実施した調査を周年にわたり、定期的を実施する。

[その他]

研究期間：平成 23 年～

研究担当者：ノリ研究担当 松原 賢

公表：H26 年日本水産学会（春） 口頭発表（赤潮発生時のデータのみ）